

「教育支援活動コーディネーターの育成及びスキルアップアップ研修」

日時: 令和元年6月11日(火) 会場: 五所川原市中央公民館 受講者数: 26名
日時: 令和元年6月12日(水) 会場: 八戸市福祉公民館 受講者数: 63名

青森県の未来を担う人財である子供たちが、心豊かでたくましく成長するためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、教職員・保護者・地域住民が連携・協働し、社会全体で子供たちを育てることが大切であるとの考えから、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐ教育支援活動コーディネーターの育成とスキルアップをねらいとして実施しているのが本研修会です。

県内6教育事務所管内を、年度ごとに2地区で開催し、3年間をかけて全管内で実施する研修会です。昨年度は、東青地区と上北地区で行い、今年度は、西北地区と三八地区で実施しました。

今回の講師は、仙台市内学校支援地域本部モデル校のスーパーバイザー、宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター地域連携コーディネーター、石巻市立桜坂高等学校就職支援員、キャリア教育コーディネーターなど、宮城県を拠点とし、多岐に渡って活動されNPO法人まなびのたねネットワーク代表理事でもある伊勢みゆき氏をお迎えし、演習による「対話」を重視した講義をしていただきました。



講師 伊勢みゆき氏

伊勢みゆき氏をお迎えし、演習による「対話」を重視した講義をしていただきました。

1 演習 グループワーク①「25歳／15歳／今の子供たち」の姿

「25歳／15歳／今の子供たち」の姿について遡って考える「バックキャストिंग」という未来思考を用いて話し合いました。25歳は義務教育終了から10年経ち概ね就職している年齢、15歳は義務教育終了の年齢です。個人でそれぞれの年齢の子供たちの姿をイメージして用紙に書いた後、どんなことを書いたのかをグループ内で共有しました。受講者は、全員が同じ言葉で同じ姿をイメージしているわけではないということ、抱く姿には個人で違いがあるということに気付くことができました。

伊勢氏からは、「活動を通して子供たちにこうなって欲しいという思いが個々にズレていると、何の為にするのかという辿り着きたいゴールも違ってくるし、今の活動も何を大事にするのかということが変わってきてしまう。地域と学校が同じ目標を持たなければ、子供の育ちにズレが出てしまう。つまり、**地域と学校がどんな子供を育てたいのかを共有することが大切である。**」ことを、仙台市の実践事例を交えながらお話いただきました。



【西北地区の様子①】

2 講義①「地域学校協働活動の必要性」

急速な社会の変化の状況から、学校だけ・家庭だけ・地域だけで、子供たちを育てるには限界があり、**これからの世の中を生きていく子供たちにとって、学校の授業だけでは十分とは言えない状況がある。**今後は、**学校・地域・家庭が一緒になって子供たちを育てる「地域学校協働活動」が必要不可欠である**ことが話されました。また、伊勢氏がコーディネーターをしている宮城県石巻市立桜坂高校の事例を挙げ、地域と連携したキャリア教育を行ったことによって、生徒たちが積極的に地域の人たちと関わりを持つようになり、そのことが就職率の向上に繋がっていることをお話していただきました。



【西北地区の様子②】

〈要 点〉

- ・学校・地域と家庭が一緒になって子供たちを育てる活動
→「地域学校協働活動」
- ・地域学校協働活動の「仕組み」をつくる→地域学校協働本部
- ・地域学校協働活動を円滑に進めるカギは、コーディネーター
→「地域学校協働活動推進員」

〈キーワード〉

- ・支援から連携・協働へ（学校と地域が対等な立場で）
- ・一方向から双方向
- ・個別から総合化・ネットワーク化へ



【三八地区の様子】

3 演習 グループワーク②「コーディネーターとして困っていること・知りたいこと」

受講者がそれぞれの立場で、今困っていることや悩んでいること、活動する上で知りたいこと等を付箋に書き出し、共通点や課題を整理しました。「人材不足・人材集め」「先生方との連携」等のキーワードが挙げられ、どうやったら解決できるのかを話し合うなど、様々な意見交換がなされました。

4 講義②「コーディネートをしやすくするコツ」

コーディネートをするときには、コーディネートをしやすくする状況をつくるのが結果的に子供の笑顔に繋がり、「プロジェクト・マネジメント」（関わる活動をプロジェクトと捉え始めと終わりまで管理する）と、「ボランティア・マネジメント」（ボランティアの方との関わり方）が大切だと話されました。

〈プロジェクト・マネジメント〉

- ・活動の目的・目標・ねらいを確認する…何のためにするのか
- ・必要なタスク（業務、やること）を洗い出す…いつ、誰が、何をするのか割り振る
- ・進み具合を把握
- ・目的を達成する

〈ボランティア・マネジメント〉

- ・活動中のサポート…環境を整備する（場所やものの準備）、認知する（活動への感謝）、示唆や助言をする
- ・評価…活動の評価・報告、活動の見直し

伊勢氏は、「ボランティアは本来、喜んで～するという意味である。学校ボランティアは本人のやりたいという気持ちだけではなく、学校からの依頼のため、本来のボランティアの意味とは異なる。本来の意味と学校ボランティアでは誤解が生じているからこそ、ボランティアをしたいという人たちの思いを聞き、その思いを上手に学校の要望と繋いであげることがコーディネーターの役割です。」とお話しされました。また、講義の最後には、「何よりも、まずは**コーディネーターが笑顔でいることが一番大事**です。コーディネーターが笑顔で、先生やボランティアの方々、子供たちに接することが活動を円滑にするコツです。」と、受講者にメッセージを送られました。

5 受講者の感想

- ・講義や演習を通して、コーディネーターの役割や他校のコーディネーターの話を聞くことができて良かったです。
- ・コーディネーターになったばかりで不安だったが、グループワークを通して充実した時間を過ごすことができました。コーディネーターとして頑張る力をもらえました。
- ・研修を終えて「何のための活動か」という部分を見直すことができました。